

第 3 次諏訪市子ども読書活動推進計画

～ つながる、つなげる、ひろがる 本と人 ～



2019（平成 31）年 4 月

諏訪市教育委員会

目次

はじめに

計画の趣旨	1
計画の位置づけ	1
計画の対象	1
計画の期間	1
第1章 第2次計画の振り返りと課題	2
1 家庭における取組	2
2 保育園、幼稚園、学校等における取組	2
3 地域における取組	3
4 市図書館における取組	3
第2章 第3次計画の基本的な考え方	4
目指す姿	4
基本方針	4
第3章 子どもの読書活動推進のための方策	5
行動目標：毎月第3日曜日を「みんなで本を読む日」とする	5
1 本は楽しい ～読書習慣が形成され、本を読むことが日常化するために～	5
2 本は役立つ ～本から学び、本を活用することができるために～	5
3 諏訪っていいね ～本からの学びを通じて、諏訪を理解し親しみを持つ～	6
数値目標	6

子どもの成長過程における読書活動推進

用語解説

<表紙写真>

左上の写真：図書館イベント スペシャルおはなし会「ぎんがまつり・ふゆ」

右上の写真：3歳児健診時の絵本プレゼント「もっともっとおひざで絵本（セカンドブック）」

左下の写真：「岩波茂雄ものがたり」紙芝居上演

右下の写真：諏訪中学校の読書会

はじめに



市内小学校の「朝の読書」の時間、読みきかせボランティアをしていた私は、いつも竹村良信氏がまとめられた「諏訪のでんせつ・むかし話・民話」（三部作：信濃教育会）の一冊を携えてまいりました。この本には諏訪の地名や方言がたくさんでできます。子どもたちはどんなふうに私の読み聞かせをきいていてくれたのでしょうか。直接尋ねることはいたしませんでしたが、子どもたちの心のどこかに「諏訪」に語り伝えられてきた何かが伝わってくれたらと願って読みきかせをしていたことを思い出しております。

さて、平成 13 年に制定された「子ども読書活動に関する法律」の施行に伴い、本市では、平成 20 年より「諏訪市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたちの読書環境の整備、ならびに自主的に本を読むための活動推進に取り組み、今回、平成 31 年度を初年度とした新たな第 3 次の計画を策定いたしました。

子どもたちをとりまく状況は、この十数年の間に急激に変わりました。

様々な情報がインターネット上にあふれ、スマホ等で子どもたちに直接流れ込んでいます。また、ゲームをやめられないゲーム依存の状態も他人事でなくなっています。さらに子どもたちのおかれる様々な環境には大きな格差もうまれているのが現状です。

そんな中であるからこそ、子ども時代に「本」と向き合う時間をつくることで、自らが考え、行動する力、自由に想像する力を子どもたちの中に育ていけるものと考えます。

市民のみなさまの一人ひとりの御力をこの読書活動推進に寄せていただくことを願うとともに、諏訪の子どもたちが本を読み、読み手を含めた記憶の中にふるさとを包み込み「諏訪っていいぞー」と語り合える人に育ててほしいと願っております。

諏訪市長 金子 ゆかり

計画の趣旨

子どもたちは読書を通じて、ことばを学び、感性を磨き、様々な考えや思いに触れることで視野を広げ、豊かな人間性を育てていきます。

子どもたちが様々な機会と場所で本*¹と出会い、自らに問いかけながら読み、学ぶことで得たものは、思考し判断し行動する場面において自らを支え、生きる力となっていきます。

この計画は、第2次子ども読書活動推進計画期間に掲げた「つながる、つなげる、ひろがる ～本と人～」を目指して、子どもたちが自分らしく生きていくために、読書の楽しさや喜びを知る読書習慣を身につけ、本から学び活用する能力を養い、自らが生まれ育った郷土を知り親しみが持てるよう、子どもの読書活動を推進するための指針を示すものです。そして子どもたちの生きる力と未来を育むために、子どもの主体的な読書活動を推進する機運の醸成を図ります。

計画の位置づけ

国は平成13年12月の子ども読書活動に関する法律の施行に伴い、すべての子どもが主体的に読書活動を行うことができるよう、読書環境の整備を推進することを基本的な理念として、平成14年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。平成14年度に第1次、平成21年度に第2次、平成25年度に第3次、平成30年度に第4次の基本計画を策定しました。そして長野県では、国の「基本計画」を踏まえ、平成16年4月に「長野県子ども読書活動推進計画」を策定し、平成16年度に第1次、平成21年度に第2次、平成26年度に第3次を策定しました。

これらを踏まえ、諏訪市では平成20年度を初年度とする第1次計画を、第1次からの5年間の取り組みの成果を検証したのち平成26年度には第2次計画を策定しました。平成30年度末の第2次計画の期間満了を迎え、第2次計画の取組の成果と課題を検証し、保育園・幼稚園・学校・地域・子育て支援関係機関及び諸団体と連携を深め、読書活動の推進を一層図るとともに、周りの大人も自身の読書やボランティア活動をさらに発展させ、「教育環境・生涯学習の充実したまちづくり」へとつなげていくため、「第3次諏訪市子ども読書活動推進計画」を策定します。

計画の対象

推進計画の対象は、0歳から概ね18歳までの子どもとします。それぞれの子どもの発達過程に則した読書活動を推進するために、家庭・保育園・幼稚園・学校・地域・諸団体・公共施設なども対象としています。

計画の期間

計画期間は、2019年度から2023年度までの5年間とします。

第1章 第2次計画の振り返りと課題

諏訪市では、平成26年度に第2次計画を策定しました。また、第5次諏訪市総合計画の基本目標3において「ともに学び、ともに育つ、未来につなげるまちづくり」という目標を掲げ、市民が生涯学習を通じて本に親しむことが重要と考え、子どもの読書活動を推進してきました。その取り組みを振り返ります。

1 家庭における取組

- 家庭への働きかけとして、ファーストブック「おひざで絵本」（以下「ファーストブック」）、セカンドブック「もっともっとおひざで絵本」（以下「セカンドブック」）のプレゼントにより、乳幼児のいる家庭に絵本を届け、親子で本に親しむ環境作りを図りました。
- 諏訪市図書館及び信州風樹文庫（以下、市図書館）や保育園での貸出により、絵本がより身近に置かれるようになってきました。
- 公民館による乳幼児学級、諏訪市図書館職員やボランティアによる図書館内や出張での「おはなし会」に家族が参加しました。

《今後の課題》

- ◎子どもが日常的に読書に親しむ環境
- ◎子どもを取り巻く人たちが読書の楽しさを伝える

2 保育園、幼稚園、学校等における取組

- 市内の保育園において、毎日の読み聞かせの実施や週1回の家庭への絵本貸出など、生活の中に絵本や読書を取り入れる活動を行いました。
- 市内の小中学校において「朝の読書」の実施、学校長をはじめとする教職員・児童生徒間・ボランティアによる読み聞かせやブックトーク*²の実施、読書会*³の開催をし、読書習慣を身につけることを目指してきました。
- 小中学校が連携し、中学生による小学生への読み聞かせ活動が広がってきました。
- 各保育園に月1回児童書を配本する「絵本便*⁴」や、諏訪市図書館と小中学校間を回る物流システム「ぐるぐる便*⁵」を運行し、図書資料の活用の機会を広げ、有効活用を図りました。
- 教職員を対象に講演会を開催し、子ども読書活動推進に向けた啓発を行いました。
- 保育園から中学校にかけての発達段階にふさわしいブックリストの作成と活用の推進を行いました。
- 高等学校において、ビブリオバトル*⁶や学校間相互貸借及び県立・公立図書館からの資料借用を行い、課題研究学習への援助を行いました。

《今後の課題》

- ◎子どもたちが主体的に読書をする力を育む取組
- ◎市内小中学校の学校司書・司書教諭から構成される図書館教育委員会と市図書館との一層の連携
- ◎支援が必要な子どもの読書活動への援助

3 地域における取組

- 子どもの読書活動の推進に携わる民間団体を把握し、団体貸出（上限 50 冊・30 日間貸出）や読み聞かせ用物品貸出等を行い、活動支援に努めるとともに子どもの読書活動の活性を図りました。
- ボランティアや一般市民向けに講座を開催し、子ども読書活動の促進に努めました。
- ボランティアによる読み聞かせや諏訪市 P T A 親子文庫による活動を支援し、家庭や地域と連携して読書活動の推進を図りました。

《今後の課題》

- ◎ボランティアと連携した読書活動の推進、充実等への取組

4 市図書館における取組

- 本の紹介・案内等を作成・配布し、また特別展示等を設置することで、本との出会い作りを進めました。
- 図書館見学や職場体験の受け入れを行いました。
- 読書活動推進や図書館の役割や必要性などの理解につながる講座を開催しました。
- 市や個人が発行する地域資料の収集に努め、学校への情報提供を行いました。

《今後の課題》

- ◎子どもたちが必要とする資料に確実に関われる方法（情報リテラシー）の育成支援と資料収集の充実
- ◎読み聞かせ・環境整備・図書館利用サポートのボランティアの育成
- ◎本との出会いのためのコーナー作りの更なる充実
- ◎諏訪の財産である信州風樹文庫についての周知・利用促進

第2章 第3次計画の基本的な考え方

第1章の振り返りを通じて、子どもたちが家庭で読書をする習慣の定着や、主体的な読書を育む取組、必要とする資料に関わることができる力の育成などが課題として挙げられました。

そこで、第3次計画において、諏訪の子どもたちの目指す姿を掲げ、またその実現に向けた基本方針を示します。

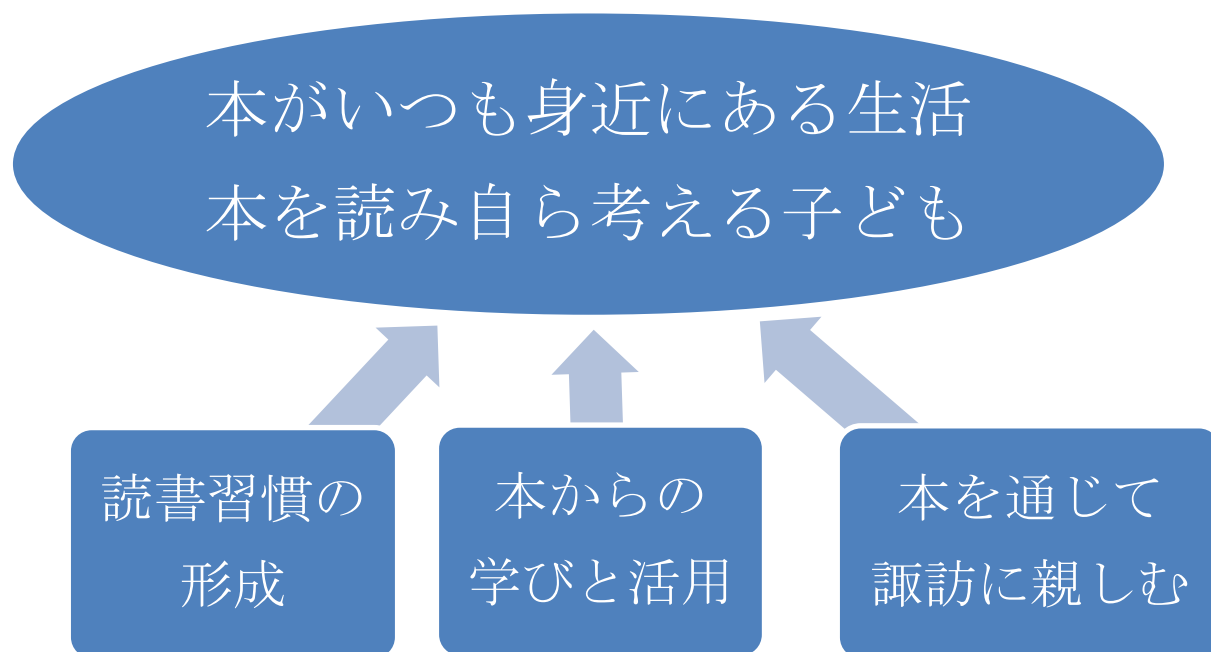
目指す姿

「本がいつも身近にある生活」

「本を読み自ら考える子ども」

基本方針

- (1) 読書習慣が形成され、本を読むことが日常化する。
- (2) 本から学び、自分の興味・関心をもとに本を活用することができる。
- (3) 本からの学びを通じて、郷土諏訪を知り親しむことができる。



第3章 子どもの読書活動推進のための方策

行動目標：毎月第3日曜日を「みんなで本を読む日」とする

心身の成長において読書活動の意義や重要性について啓発するとともに、家族で本とともに過ごす日として「みんなで本を読む日」を設定し、下記の具体策に取り組むこととします。

1 本は楽しい ～読書習慣が形成され、本を読むことが日常化するために～

- 心身の成長において読書活動の意義や重要性について啓発し、毎月第3日曜日を「みんなで本を読む日」に設定し、子どもの図書館利用者カード登録をPRし、家族で本とともに過ごす。
- 本に親しむため市図書館において貸出冊数の上限を増やす機会をつくる。
- 子ども読書の日（4月23日）を中心に家庭読書・親子読書の積極的な普及啓発を行う。
- 「よんどこ絵本リスト」「学校司書のおすすめ！ブックリスト」を見直しながらか作成し、読みきかせやブックトークなどを通じて発達段階にふさわしい本との出合いの機会となるよう、ブックリストを広く周知する。
- ファーストブック・セカンドブック両事業の実施により、乳幼児の身近な場所に絵本を届ける。
- 保育園、幼稚園において乳幼児期に読書の楽しさを知らせ、絵本や物語に親しむ活動を積極的に行うとともに、保護者に対しても読書活動の大切さについて啓発する。
- 小中学校において「朝の読書」の実施・読書会・ビブリオトーク*7・読み聞かせ・小中連携の読書活動など児童生徒の興味や関心を喚起するような工夫をし、学校や家庭における読書習慣の確立を促す。
- 支援が必要な子どもが豊かな読書活動を体験できるよう、ブックリストの提示やおはなし会の講座等を開催する。
- ビブリオトークの場を諏訪市図書館で提供する。
- 諏訪市PTA親子文庫の活動を支援し、家庭・地域・学校の連携を深める。

2 本は役立つ ～本から学び、本を活用することができるために～

- 全教職員の読書活動に関する理解を深め、意識が高まるような研修を進め、読書活動の効果を学校教育活動全体に生かせるよう努める。
- 学校司書会を通じて学校司書間の情報交換や研修を行い、本と図書館を活用できる力を育てるために学校司書の資質の向上を図り、学校図書館を活用できるよう努める。
- 物流システム（ぐるぐる便）を高等学校に拡充し、諏訪市図書館としての資料提供をすすめる。
- 諏訪市図書館と学校図書館で連携し、百科事典・図鑑・新聞*8等を活用した情報リテラシー育成のための授業を行う。
- 個人や民間団体等との連携と協力を図るため、積極的に情報交換を行う。
- 諏訪市図書館の団体登録についての利用周知及び拡大を図る。

3 諏訪っていいね ～本からの学びを通じて、諏訪を理解し親しみを持つ～

- 公的機関の情報や地域資料の収集を図る。（「すわをしっとこコーナー」の充実）
- ふるさと学習（すわっこ学習・諏訪学）、調べ学習等を推進するため、学校を通じた図書館資源の有効活用を支援し、県立・公立図書館と相互連携を図り必要とする資料の収集*⁹を行う。
- 市図書館を用いた「司書体験」や「図書館つかいこなし学習」を行い、図書館の使い方を啓発するとともに地域の図書館の特長を知ってもらえるよう努める。
- 「広報すわ」のほか諏訪市・諏訪広域図書館のホームページを通じて、全庁で行われている子育て支援事業や子ども読書活動推進関連事業をPRし、情報の提供と啓発に努める。

数値目標

本計画では特に基本方針の1「本は楽しい ～読書習慣が形成され、本を読むことが日常化するために～」を実現するために、下記の数値目標を設定します。

目標		第2次期間 平均値	2022年度目標値
①0～18歳の登録者数/諏訪市人口		34 %	35 %
②市図書館における絵本の貸出冊数		51,541 冊	53,000 冊
③学校図書館における 1人当たりの年間貸出冊数	低学年	72 冊	80 冊
	高学年	67 冊	72 冊
	中学校	19 冊	24 冊
④市図書館における団体の貸出冊数		13,602 冊	15,000 冊
⑤市図書館における全体の貸出冊数		242,582 冊	280,000 冊
⑥市図書館開催の読書会（ビブリア トーク等）の参加者数		未実施	36 人

※本計画は2023年度までだが、効果検証のため、4年経過後の2022年度の数値を目標値として設定する